

# 紀州徳川家伝来の雅楽譜について

遠藤 徹・清水淑子・前島美保

付 増補改訂資料図録3楽譜の部

Gagaku Scores of the Heirloom of Kishu-Tokugawa Family  
Appendix : Revised and Extended Edition of the Part of Gagaku Scores in the "Illustrated Catalogue of National Museum of Japanese History Vol.3"  
ENDO Toru, SHIMIZU Yoshiko and MAESHIMA Mio

はじめに

- ① 紀州徳川家伝来の雅楽譜の概要(遠藤)
  - ② 徳川治宝の雅楽歴と楽譜の収集(遠藤)
  - ③ 伝来楽譜にみる江戸末期の雅楽伝承の一面面—平調越天楽を例に—  
笙譜の二様(遠藤)、箏築譜(清水)、龍笛譜—仮名譜の三様—(前島)  
おわりに
- 付 増補改訂資料図録3楽譜の部

## 【論文要旨】

本稿は、平成十八年度から平成二十年度にかけての共同研究「紀州徳川家伝来楽器コレクシヨンの研究」における楽譜班の調査に基づき、伝来楽譜についての基礎的考察を行ったものである。国立歴史民俗博物館所蔵の紀州徳川家伝来楽器コレクシヨンの雅楽譜は、昭和二十八年に田部長右衛門が徳川頼貞から楽器コレクシヨンを譲渡された際に、一緒に譲渡された一群の雅楽譜に由来する。それらは紀州徳川家が収集した雅楽関係の文献からみると一部に過ぎないが、三十件百三点に及ぶ雅楽譜がまとまって伝来することの意義は決して小さくない。

当コレクシヨンの楽譜は、横笛譜、箏築譜、笙譜、琵琶譜、箏譜、和琴譜からなり、雅楽に用いられる管楽器、絃楽器の全ての楽譜が偏りなく含まれている。用途別に見ると、治宝宛(あるいは斉順宛)の伝授譜や参照用の楽譜、実用の楽譜の二類に分けられる。注目されるのは、総じて治宝の時代の雅楽の実態を直に反映した

楽譜が数多く含まれている点である。そのため、これらの伝来楽譜は、治宝自身の雅楽歴を具体的に辿ることができるに止まらず、治宝の時代の雅楽の有り様について、雅楽の普及の側面からも、三方伶人の伝えている楽の内容の側面からも、雅楽史の一面面をよく映し出したものとなっている。

本稿では、先ず上記の如き伝来楽譜の概要を記述し、次いで、治宝への伝授年代に基づいて伝来楽譜を整理し、中小曲の習得から大曲伝授に至るまでの治宝の雅楽学習歴を大まかに跡づけることを試みた。最後に、伝来楽譜にみる治宝と同時代の雅楽史についての一考察として、平調越天楽を例に、複数の笙譜、箏築譜、龍笛譜の比較を試み、今日の画一化された楽譜とは異なり、江戸時代末期には流儀の違いによって記述された楽譜自体にもかなりの異同が見られることを具体的に示した。

【キーワード】雅楽、楽譜、徳川治宝、楽家、越天楽、南葵文庫、江戸時代、大名、武家